



ヴィクトル・リャードフ ピアノリサイタル



Victor Lyadov
Piano Recital

トランスクリプションズ

～ピアノで奏でる歌曲・オペラ・バロックサロン音楽・オーケストラの世界～

2006年11月16日 (木) 19:00開演

Thursday, 16th November, 2006 at 19:00

ザ・フェニックスホール

The Phoenix Hall

主催◆ヴィクトル・リャードフピアノセミナー実行委員会

後援◆株式会社 音楽之友社◆在大阪ロシア連邦総領事館◆社団法人 全日本ピアノ指導者協会

協賛◆株式会社 河合楽器製作所

協力◆大阪アーティスト協会

文化庁・関西元気文化圏参加事業



🎵 プログラム

トランスクリプションズ

～ピアノで奏でる歌曲・オペラ・バロックサロン音楽・オーケストラの世界～

◆シューマン＝リスト：2つの歌曲

1. 春の夜
2. 献呈

◆ショパン＝リスト：6つのポーランド歌曲

1. 乙女の願い
2. 春
3. 指輪
4. バッカナール
5. 私の愛しき人
6. 家路

◆ヴェルディ＝リスト：歌劇「シモン・ボッカネグラ」の回想

= 休憩 20分 =

◆ゴドフスキー：組曲「ルネッサンス」より 4つのトランスクリプション

- ・ラモー＝ゴドフスキー：タンブーラン
- ・リュリ＝ゴドフスキー：サラバンド
- ・ラモー＝ゴドフスキー：ロンド形式のミュゼット
- ・リュリ＝ゴドフスキー：クーラント

◆ラヴェル：「ラ・ヴァルス」～オーケストラのための舞踊詩～（作曲家自身によるピアノ独奏版）

※トランスクリプションとは・・・ある楽曲をオリジナルとは異なる楽器での演奏形態に書き改めること、またはその作品を意味する。

🎵 演奏者プロフィール ヴィクトル・リヤードフ

モスクワ音楽院付属中央音楽学校でウラジーミル・ブーニン氏に師事し、モスクワ音楽院、同音楽院大学院では世界的名ピアニスト故タチアナ・ニコライエフ教授クラスに学ぶ。大学院修了後は、ニコライエフ教授が亡くなるまで、同音楽院で同教授のアシスタントとして教鞭をとっていた。

ロベルト・シューマン国際ピアノコンクール（ドイツ）、パロマ・オシエア国際ピアノコンクール（スペイン）、ソニア王妃国際ピアノコンクール（ノルウェー）、エリザベート王妃国際ピアノコンクール（ベルギー）など数々の国際コンクールで入賞。1994年第2回浜松国際ピアノコンクールでは優勝を果たし、一躍世界的に脚光を浴びる。

現在は、モスクワを拠点にドイツ、オーストリア、スペイン、ノルウェー、イギリス、ベルギー、ユーゴスラビア、リトアニア、ポーランド、アメリカ、エクアドル、韓国、日本など各国で演奏活動を行い、ソロリサイタルだけでなく、スペイン放送交響楽団、コルドバフィルハーモニー管弦楽団、セヴィリヤフィルハーモニー管弦楽団、スコットランド室内管弦楽団、オスロフィルハーモニー管弦楽団、ドイツ・ツヴィッカウ交響楽団、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤルフィルハーモニー管弦楽団、リュージュフィルハーモニー管弦楽団、エクアドル国立グアヤキル交響楽団の他、ロシアやウクライナ、日本の主要オーケストラとも協演している。

また、多忙な演奏活動の傍ら、CD録音やコンクール審査、世界各国でマスタークラスの指導を行うなど、後進の指導にも力を入れている。

🎵 ごあいさつ

本日は、お忙しい中、ヴィクトル・リヤードフピアノリサイタルにご来場賜り、誠にありがとうございます。今回のプログラムは、すべてピアノ独奏用に編曲された楽曲ばかりで構成され、一晩で歌曲、オペラ、クラヴサン音楽、管弦楽曲の名曲を一度にお楽しみいただける珍しいコンサートになっております。リヤードフ氏の多彩な音色でリスト、ゴドフスキー、ラヴェルの豪華絢爛なトランスクリプションをご堪能いただければ幸いです。

明後日からは、一週間にわたって「ヴィクトル・リヤードフピアノセミナー」が開催されます。今年で4回目を迎えるこのピアノセミナーは、毎年秋に行われる関西クラシック音楽界の行事のひとつとして定着してまいりました。回を重ねるごとに受講希望者が増え、今回は、こちらの予想を大幅に上回るたくさんの優秀なピアニストたちから受講のお申し込みがあり、急遽レッスン時間を増やして対応に追われるほどになりました。このセミナーで若い才能あるピアニストたちが、リヤードフ氏から多くを学び、将来の日本の音楽界を支える人材に育ちますよう、切に願ってやみません。

また、昨年は日露修好150周年という歴史の節目の年にあたり、外務省の記念事業の一環として開催した当セミナーの日露音楽文化交流への貢献が評価され、外務大臣麻生太郎氏より礼状が送られました。この場をお借りて、コンサート、セミナーの開催にご協力いただいた方々に、あらためてお礼申し上げます。

ヴィクトル・リヤードフピアノセミナー実行委員会

🎵 プログラム解説

プログラムは、ピアノ独奏用に編曲された歌曲、オペラ、サロン音楽、管弦楽曲といった様々なジャンルの有名なトランスクリプションとあまり知られていないトランスクリプションから構成されています。

プログラムの前半では、ロマン派の歌曲・オペラトランスクリプションの伝統を創り上げたリストのトランスクリプションが演奏されます。リストは、シューベルトの歌曲の編曲を多く手がけた後、シューマンやショパンといった偉大な同時代人の作品の編曲に着手しました。有名なシューマンの歌曲「春の夜」や「献呈」は、編曲者リストの繊細かつヴィルトゥオーブな技法の見本となっています。リストは、シューマンの手法を極限まで保ちながら改作し、ロマンティックな度合いを高めて、聴き手をシューマンの登場人物たちの秘められた思いに近づけました。リストの卓越した技法は、芸術的な意味合いをもたらしています。リストは、木の葉がひらひらと揺れる「春の夜」を鶯のさえずりと風の昂揚で色豊かなものにし、また、喜びに満ちた告白である「献呈」を情熱の愛の賛歌に変え、この作品を究極のロマンティックな愛の告白の表現にまで近づけたのです。

リストは、話の筋が通ったショパンの6つの歌曲を組み合わせて音楽的なシリーズにまとめました。6つの歌曲のうち、始めの4つの歌曲では、次にくる歌曲はどれも前の歌曲の終わりと同じ音から始まるよう「輪」が作られ、3つ目と4つ目の歌曲の間は決して中断されずに演奏されます。4つ目の歌曲の後、リストは劇的なコントラストを作り上げるために一連の「輪」をから鎖をはずしました。このシリーズでは、リスト自身の歌曲トランスクリプションとは異なり、オリジナルの詩の文章をピアノのテキストに書き写していないため、いろいろな歌曲の主人公たちをペアで組み合わせて「彼と彼女、彼らの物語」というように、筋の解釈を自由なものにしています。

第1曲「乙女の願い（もし、私が太陽なら、あなたの上でだけ輝いていたい）」—軽快で、いたずらっぽい手法。夢見心地で空を飛ぶような陽気な年頃の少女のポートレートを描写。

第2曲「春」—若いメランコリックな牧童。もしかしたら少し退屈でうんざりした人。しかしとても献身的な男性のポートレート。

第3曲「指輪」—劇的な躍動：彼が彼女に記念にプレゼントした指輪はむなしなものとなった—今、彼女は他の男性と一緒にいる。

第4曲「バッカナール」—自由奔放、陽気でユーモラスなショパンの作品「おい、女主人よ、酒を飲もう！」に、リストは3つ目の歌曲「指輪」からの引用を挿入し、自分の主人公をシリーズの主人公として据えています。すでに述べたようにリストはこの2つの歌曲を休みなく結びつけ、「バッカナール」のテーマへと移行させています。

第5曲「私の愛しき人」—シリーズのリカルなクライマックス。シリーズの主人公の愛は活気にあふれ、永遠のものである。

第6曲「家路」—悲劇的なフィナーレ。主人公は最愛の人の元に帰るが、彼女はもうこの世にはいない—「墓場から戻って来い！」と彼は呼びかけている。

「ボッカネグラの回想」は、リストの膨大なオペラトランスクリプション作品集の終止符となるものです。この作品は、オペラトランスクリプションの習性である華やかさを欠き、晩年のリストの思想と傾向を描写しています。それについては、この編曲のためにオペラの序曲とシモン・ボッカネグラ氏の死のシーンが選ばれたことが物語っています。

後半は、他の有名な編曲者ゴドフスキーのトランスクリプションで始まります。膨大な数の卓越したトランスクリプションの創作者ゴドフスキーは、技巧を一層複雑にするので、しばしばオリジナルの作風が彼のヴィルトゥオーブな探求の中で失われています。だから、彼のスタイルは「サロン風」に属すると見なされています。ゴドフスキーの傑作「ルネッサンス」に特化したものではなく、彼の舞曲トランスクリプションは、最も法則的で面白く見えます。リュリやラモーといったバロック室内楽の小品が、ゴドフスキーのトランスクリプションにおいて新しい予期せぬ色調や感情のニュアンスで輝き出しているのです。今日は「ルネッサンス」の16作品の中から調性の相似（ホ短調—ホ長調）にそって小さな組曲として集められた4曲をお聴き下さい。4曲のトランスクリプションの前には、いずれも原曲が演奏されます。これは、時代の様式的な違いを楽しむことを可能にしています。

コンサートは、ラヴェルの「ラ・ヴァルス」—作曲家自身によるオーケストラ版（原曲）の改作—で締めくくられます。「改作」は「トランスクリプション」とは異なり、ある楽器の種別（オーケストラ）から他の種別（ピアノ）へと作品の様式ができる限り忠実に置き換えられ、原曲の技法と形式が幻想的に展開されています。しかし、ラヴェルの「ラ・ヴァルス」の豊かなオーケストレーションの総譜は、マテリアルの選択で困難を伴い、その権利は、この作品を演奏する各々のピアニストに委ねられています。だから、演奏者は皆、「ラ・ヴァルス」のオーケストラ原曲に自主的に取り組み、自身のセンスや専門性でマテリアルを選択しています。だからこのトランスクリプションの「作曲者の」と称されているのは仮のものなのです。ラヴェルがピアノのために特別に書いた作品「優雅で感傷的なワルツ」とは異なり、技法と内容において室内乐的に洗練されています。「ラ・ヴァルス」—おとぎ話のようなスケールの大きい、上流社会の豪華絢爛な作品、そして正真正銘、ウィーンワルツの祝宴なのです。

ヴィクトル・リヤードフ（訳：佐伯 理恵子）

KAWAI



無限の喜びを、ピアニストへ。

すべてに妥協を排した、作り手の情熱がここにある。

素材、技術、音色など、贅沢なまでに響きの原点を追究したShigeru Kawaiグランドピアノシリーズ。

一音に集中する、弾き手の情熱がそこに向かう。

音楽性・技巧・感性など、純粹なまでに演奏の本質を追求するピアニスト。

ふたつの情熱は共鳴し、美しい価値を持った新しい芸術へと昇華する。

それは、カワイがめざす、音楽と感動の理想の姿。

ピアノとピアニストを結ぶ鍵盤タッチに、革新的な技術で応えたSKシリーズ。

新しい時代を予感するピアニストたちに捧げたい。


SHIGERU KAWAI

GRAND PIANO

■ Grand Piano SK Series

SK-5 標準価格 (税込) 2,677,500円 (奥行197cm)

SK-7 標準価格 (税込) 5,355,000円 (奥行227cm)

SK-3 標準価格 (税込) 2,362,500円 (奥行186cm)

SK-6 標準価格 (税込) 4,515,000円 (奥行212cm)

SK-2 標準価格 (税込) 2,047,500円 (奥行178cm)

 株式会社河合楽器製作所

関西支社 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-3-9 静岡県産業ビル内 Tel.06-6262-2131 <http://www.kawai.co.jp>